

現代の職人たちが制作した浮世絵で、蔦重の仕事を知る 企画展「復刻版で体感！ 歌麿・写楽のキラキラの魅力」 歌麿の美人画の版木が見られるギャラリートークも



2025年10月21日(火)より、公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団（東京都新宿区）では、財団常設展示場にて、企画展「復刻版で体感！ 歌麿・写楽のキラキラの魅力」を開催（共催：株式会社アダチ版画研究所）します。

今年のNHKの大河ドラマ「べらぼう ～蔦重栄華乃夢噺～」は、江戸時代の版元・蔦屋重三郎が主人公です。歌麿・写楽といった個性的な絵師を発掘し、卓越したアイディアとビジネスセンスで、さまざまな出版物を世に送り出した蔦重。一介の庶民が、浮世絵というメディアを通じて社会を変えていこうとする姿が多くの共感を呼び、いま、絵師だけでなく、浮世絵のつくり手たちへの関心が高まっています。

本展では、現代の職人たちが復刻した浮世絵版画20点余と木版制作にまつわる資料を展示し、浮世絵に込められた、つくり手たちの創意と工夫を読み解きます。特に、蔦屋ブランドを特徴づける独特の光沢感を持った背景の「雲母（キラ）」に注目。明るい照明の下で、手に持って鑑賞できる復刻版ならではの展示を行います。江戸時代当時の姿を再現した復刻版によって、歌麿・写楽らの浮世絵が人々に与えた衝撃と感動を、ぜひ体感ください。

【本リリースに関するお問合せ】 公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団（担当：杉本）

Tel. 03-3951-1267 Fax. 03-3951-2137 Mail. adachi@adachi-hanga.com 〒161-0033 東京都新宿区下落合3-13-17

■大河ドラマの撮影に協力した職人たちが作る「復刻版」とは？

会場に展示される浮世絵作品は、いずれも江戸時代と同じように、現代の職人が一点一点制作した木版画です。制作しているのは、大河ドラマ「べらぼう」の撮影に協力している木版画の工房兼版元「アダチ版画研究所」の彫師・摺師です。同所では、伝統的な木版技術の継承に取り組んでおり、現在工房では、女性を含む20～30代の職人たちが活躍しています。（※工房は通常非公開。）



浮世絵は、江戸時代に多くの人々が手にした大衆娯楽でした。出版当時を再現した復刻版によって、木版画が今よりもっと身近であった当時の人々の楽しみを追体験することができます。明るい照明の下で、作品を手にとって鑑賞いただけるコーナーも設置します。また会場では、職人たちの道具、制作工程を解説した資料なども展示し、江戸文化を彩り、今なお人々の暮らしを豊かにしている伝統木版画の技術について紹介します。

■実は謎だらけ

鳶屋が仕掛けたキラキラ輝く背景

鳶屋から寛政年間のはじめに刊行された写楽や歌麿の浮世絵の多くは、背景に独特の光沢があります。鉱物性の粉である雲母が使用されていることは分かっているのですが、浮世絵版画の通常の「雲母摺り（きらずり）」では、これほどの効果は生まれません。作品の裏側を見ても、この背景部分にだけ、バレンで摺った跡が残っていないのです。



浮世絵の様々な技法が職人の中で受け継がれてきた中で、この蔦屋版に見られる独特の光沢のある背景のつくり方は伝承されませんでした。東洲斎写楽の作品すべてを復刻することに生涯を捧げたアダチ版画研究所の創業者は、大正時代の終わりから浮世絵の復刻事業に関わる中で、この部分は型紙を用いて、刷毛で絵具を引いているものと考えました。しかし何に雲母を混ぜているのか、その材料も分かりません。当時、職人たちが入手できたであろう素材で試行錯誤を繰り返し、雲母と膠を混ぜ合わせ、蔦屋版作品とほぼ同じ効果を生み出すことに成功しました。



写楽に限らず、江戸の浮世絵にはまだまだたくさんの謎があります。蔦屋版の浮世絵の特異性を素材や技法の面から紹介する本展が、皆さんの謎解きの一助となれば幸いです。

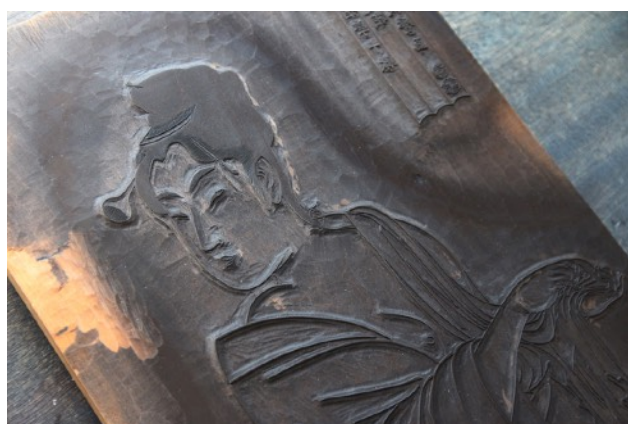


【本リリースに関するお問合せ】 公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団（担当：杉本）

Tel. 03-3951-1267 Fax. 03-3951-2137 Mail. adachi@adachi-hanga.com 〒161-0033 東京都新宿区下落合3-13-17

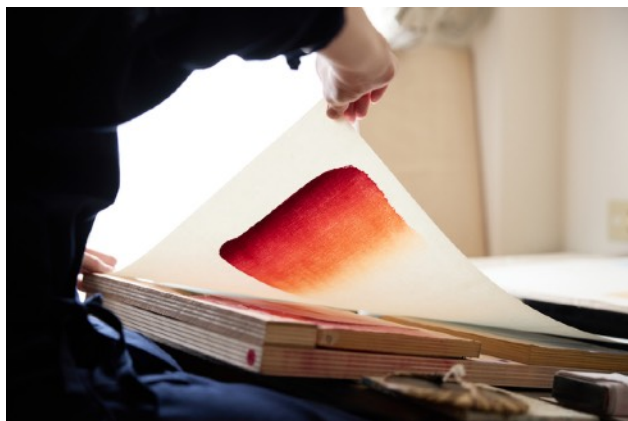
■大河ドラマの撮影にも使用した版木を特別公開！ ギャラリートークを開催

展示内容をより深くお楽しみいただけるよう、会場スタッフが会期中4日間・計6回のギャラリートーク（各回約45分）を実施します。参加者には特別に、大河ドラマの撮影で出演者の方々も手にした、歌麿の美人画の版木（※アダチ版画研究所の彫師が彫ったもの）をご覧ください。彫師の精緻な仕事を間近でご覧いただける貴重な機会です。ぜひご参加ください。（要申込）



■現代の職人たちが挑む「新たな浮世絵」

同会場にて特集展示「版元 アダチ版画研究所の仕事 ～浮世絵の復刻から現代アートまで～」を同時開催します。これまでアダチ版画研究所では、歌麿・写楽以外にも数多くの浮世絵の復刻を手掛け、また同時代のアーティストたちの木版画を制作してきました。（後者の成果は今春、東京国立博物館 表慶館にて開催した「浮世絵現代」展に結実しました。）北斎、広重、草間彌生、田名網敬一、李禹煥ら、古今の絵師・アーティストたちの作品を通じて、江戸から現代、そして未来へと続く技術継承のかたちをご覧ください。



なお10月10日より、アダチ版画研究所の職人たちが現代のアーティストたちとのコラボレーションに挑むドキュメンタリー映画「バレンと小刀」（松本貴子監督／出演：草間彌生、ロック・アヤコ、アントニー・ゴームリー、ニック・ウォーカー、李禹煥ほか）が公開となります。詳細は映画公式サイト（[https://baren-kogatana.jp/</](https://baren-kogatana.jp/)

■ 開催概要

企画展「復刻版で体感！ 歌麿・写楽のキラキラの魅力」

同時開催「版元 アダチ版画研究所の仕事 浮世絵の復刻から現代アートまで」

会期：2025年10月21日(火)～11月15日(土)

時間：火～金曜日 10:00～18:00 / 土曜日 10:00～17:00

休業日：日・月曜日、祝日

会場：アダチ伝統木版画技術保存財団 常設展示場（東京都新宿区下落合3-13-17）

お問合せ：Tel. 03-3951-1267

入場無料

【ギャラリートーク実施日程】

- ①10月24日(金) 11:00～／②11月1日(土) 11:00～／③11月1日(土) 14:00～／④11月5日(水) 11:00～
⑤11月15日(土) 11:00～／⑥11月15日(土) 14:00～

企画展ウェブサイト https://foundation.adachi-hanga.com/information_kirakira/

チラシ（オモテ／ウラ）※下記URLよりPDFでダウンロードいただけます。
https://foundation.adachi-hanga.com/wp-content/uploads/2025/09/flyerA4_kirakira_web.pdf



■ 広報用画像

本リリースに掲載している画像のほか、下記の作品画像、イメージ画像をご用意しています。
その他についてはお問い合わせください。

浮世絵復刻版（いずれもアダチ版画研究所制作）



◀画像①
東洲斎写楽
「三代目大谷鬼次の
江戸兵衛」



◀画像③
葛飾北斎
「富嶽三十六景
神奈川沖浪裏」



▶画像②
喜多川歌麿
「ビードロを吹く娘」

▶画像④
歌川広重
「名所江戸百景 浅草金龍山」



現代作家の木版画（使用時にはクレジットの記載をお願いします。）